

令和 5 年度 園評価書

園番号 7 園名 瀬名川こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている, C:あまりできていない, D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
自ら考えて行動する子	思いをつたえ遊びを繋げる ～またやりたい明日もやりたい～	子どもの「やってみよう」とする思いに合わせた素材・教材・用具を出したり引いたりした環境の工夫をしている	毎週金曜日に環境会議を行い、環境図を活用して園庭の遊びの充実を図っている。玩具の使い方、提供の仕方など、学年を超えての相談の機会にもなっており、次の日の環境の準備にも反映されている	A	A	・子どもが廃材を使って様々な物を作って持って帰ってくる。仕掛けを作って動かせるようになっていたり、細かい所まで工夫したりして作っている。園で、様々な教材や素材を用意し、関わってくれている事が良く分かる	・10分間トークの内容は、子どもの姿の見取りにクラスによってばらつきが見られる。写真で一場面を切り取り、保育を見て、トークの内容を深めていく。また一人担任のクラスでは、語り合いが難しい面もある。担任だけでなく他学年やフリー職員と、話をしていきたい ・取って置いた物をどうしたいか、週末などに子どもに投げ掛けていく意識をもっていく
		子どもの姿を見つめ、一人一人の思いに寄り添った丁寧な関わりをしている	10分間トークの中で、子どもの姿を職員同士で語り合い、自身では気付けない子どもの姿を知る事で、より丁寧な関わりにつながっている。また、誰でも閲覧できる場所にファイリングした事で、職員が、自身の保育に活かしているが、クラスによって内容にばらつきがある	B	B	・園生活の時間は、子どもが「遊びを工夫していく」という点を、職員が伸ばしてあげる事が大事だと思うから、職員の関りが大切 ・10分間トークについては、職員によってばらつきがある事は当然。少しずつ園長の言っている事を職員が具現化できると良い ・取って置いた物をどうするかなど、環境会議で話した内容を、その後どうするかまで決めていく必要がある。(期限を決めるなど)	
		今日の子どもの遊びを捉え、子どもの思いがながる遊びの終わり方・振り返りの工夫をし、子どもに投げかけている	クラスの遊びの様子の写真を貼ったり、遊びのコーナーごとで振り返りをしたりと、年齢やその日の遊びの様子に合わせて振り返りを工夫している。取って置いた物がいつまでも使われず、置きっぱなしになっている	B	B		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	発達見通し表の見直しを行い、ハサミやのりの使い方など、具体的な部分について検討する機会を設けた。表を見ながら保育に活かす様になっている。年齢が低ければ低いほど個人差も大きいので月齢や、経験の差も踏まえて考えていく必要があった	B	B	・前向きに取り組んでいることが良く分かる	見通し表を活用し振り返りをしながら、月齢や経験の差を踏まえた個々に応じた経験を積み重ねていく。検討が必要な部分は職員全体で確認していく。学年間で相談しながら子どもの経験に差が出ないように活動を進めていく
		(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人が安心して過ごせるスペースの工夫がなされている。子どもの成長を共有するために、直接保護者と話す機会をつくらせたり、様々な方法で子どもの成長を伝えるようにしている。しかし、保護者アンケートでは、まだ十分とは言えない	B	B		来年度は、遊びの様子を見て頂く参加会に加えて、乳児で要望が多かった給食の様子を見て頂く日程を作る
		(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもの興味関心に合わせた環境になるように、職員間で共通の環境図を活用し、職員間で共通理解している。その環境図が、週末には更新され、子どもたちの遊びの継続が意識出来る	A	A	・忙しい中でも環境会議を継続することができた。ただ、会議時間が長くなってしまふ事があるので、時間を上手に使いながら環境会議を無理なく進めていけるようにしたい	
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	災害・不審者など、それぞれの訓練において、とるべき行動を職員が十分に理解し、子どもたちにも指導している。また、分掌がまとめた反省点をボードを活用して職員間で周知している	今年度は、風水害の訓練を、保護者を巻き込んで取り組むことができた。子どもも訓練を積み重ねる事で落ち着いて避難できるように なった。不審者訓練は後半に偏ってしまった。突発的な訓練に、指示を待つてしまう傾向がある	B	B	・各種訓練が、必要だと思うのなら、忙しくとも、最優先で行うべきだと思う	予告無しでの災害訓練、不審者訓練を、もっと早い時期から行い、その時の状況に応じて対応できる力が身につくような計画を立てていきたい
		(1)健康教育の充実	子どもたちに「食べることが健康につながる」という事が伝わるよう、各年齢に合わせて、栄養士と連携をとり、楽しい給食の提供を工夫している	A	A	・食育は、知・徳・体を支えるとても大切な土台 となる教育である ・野菜嫌いな子が多いと思う。また、食べる量も個人差がある。園で丁寧に関わっているのに、学校ではそこまでできていないかもしれない。そういった面でも、幼こ小の接続が難しい。給食参観に小学校に行く事も良い	来年度の食育活動に繋げていく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	専門機関の講師による園内研修を継続して行い、助言を定期的に頂き、職員全体が特別支援教育に対するスキルアップをしている。また、職員会議で個別の様子、支援方法を伝えることで、園全体で共通の支援ができるようにしている	定期的な外部講師から、具体的なアドバイスももらって、子どもたちの支援につなげている。後半は、自分たちで研修内容を考え学びあう事ができた。しかし、全職員に周知する難しさを感じている。個々の特性や発達理解が不足しているため、サポートプランの記述がまだ十分ではない	B	B		外部講師による専門的な知識に加えて、特別支援コーディネーターを中心に、その子の特性を理解し、どこを伸ばしていくのが良いか、そのためにどんな支援をするのがベストなのかを考えていけるようにする
		(1)組織体制の充実	各職員が、自分の分掌の役割を理解し、主体的に活動が進められ、進捗状況や投げ掛けが、分掌ボードに掲示され、職員間で共有されている	B	B		分掌担当は、発信者となり、運営を職員全体で協力して進められるよう、分掌リーダーの役割を再確認していく
6 研修	(1)研修体制の充実	事前に書面に目を通して意見を集めたり、担当者が回答を記入したりし、円滑に会が進むようにし、小グループでの話し合いをして参加職員から子どもの姿を捉えた活発な意見が出やすい環境を整えている	研修部が事前に視点を絞り、短時間でも話し合いがしやすい研修となっている。研修の内容をまとも職員に配布し、研修に参加できなかった職員にも周知できるようにしている	A	A		今年度の成果と課題を出し、来年度も活発な意見が出る研修を進め、10の姿を毎回意識して園内研修をすすめていく
		(1)教育・保育環境の充実	子どもが安全に過ごせる場が常に整備され、必要に応じて修繕が行われている	運動会前には、保護者の方の力を借りて園庭整備を行うことができた。日々の中で修繕が必要な箇所については、キッズガードさんに頼み迅速な修繕を行うことができていた。保護者アンケートでは評価が低い	B	B	・保護者アンケートで、評価が低かった理由を検討していく必要がある
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	各学年ごとの参加会や個人面談を通して、保護者と共に子どもについて語り合う機会を作り、保護者の声を丁寧に聞き取りと共に、園での様子をお便りやドキュメンテーションで伝える等し、子育ての悩みや楽しさを伝え合っている	お便りやドキュメンテーション、玄関への作品展示によって、保護者の方に日々の様子を発信する事で、玄関の展示物を楽しみにしている保護者の姿が多く見られた。参加会や、面談は、直接保護者の方と話せる良い機会となっている。また、悩みや相談はスピードをもって対応できた。ただ、保護者アンケートでは、やはり園の様子分かりにくいという意見もきかれたので、今後の課題としたい	B	B	・玄関掲示は、園の温もりが伝わってくる	来年度からタブレット導入に伴い、徐々に園の様子や子どもたちのあそびの姿などが保護者に配信できる予定
		(1)近隣の園との連携の推進	アプローチャリキュラムを基に、小学校との連絡を取り合い、就学に向けた活動内容を考え、交流をしている	幼こ小交流会の参加もでき、就学を楽しみにできる機会となった。職員も、連絡会や参観等の小学校との交流が増えた事で、就学に向けて見通しを持ち教育・保育に活かすことができた	A	A	・積極的に小学校との交流を図ってくれていて、小学校としても有難い ・小学校との交流をしてくれて保護者としても有難い。小学校に行ったらどうやって遊ぶんだらうかと不安なので、少しでも不安がなくなればいいなと思っている
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	おしゃべりサロンを実施し、地域の子育て家庭へ、子育て情報や園の教育保育についての発信をしている。連携園へ公開保育の案内を送り、地域の子育ての連携をとっている	おしゃべりサロンに多くの方が参加し、園内の様子を見てもらうことができた。敬老のはがきを通して地域の方と交流したり、文化展に作品を出展したりしている。小規模園との交流を増やしたい	B	B		連携園や小規模園と、お互いの保育を知り、スムーズな移行ができるような交流が日常的に必要と考える地域に流れる長尾川の散策を保育に活用し地域を知る